

高校生 古里の課題学ぶ

駒ヶ根ウミガメプロジェクト始動

駒ヶ根工業高校でスタートしたウミガメプロジェクト。SDGsについての講義ではカードゲームを通じて、地域の課題に取り組んだ



進学や就職で都市部に出た若者呼び戻し、起業や就職を支援する駒ヶ根市の「ウミガメプロジェクト」で、市と連携協定を結んだ駒ヶ根工業、赤穂の両高校で生徒が人口減少など地域の課題について学ぶ講座が16日、駒ヶ根工業を皮切りに始まった。初回は同校の1年生120人が、市の職員らを講師に地域の未来について考えた。

市は2月18日に両高校と連携協定を締結。プロジェクトの名称は大海で成長した後、産卵のために生まれた浜辺へ戻るウミガメに例えた。講座は外部から講師を迎え、両校でそれぞれ年数回開く予定だ。

この日は1年生3クラスが「キャリア教育」の時間を使い、「SDGs（持続可能な開発目標）」は自分ごと「人口減少時代の地域づくり」「ローカルイノベーション

ユン人生100年時代の地域づくり」の三つの講座をクラスごとに開いた。

市と青年海外協力協会（J-OCA）の職員らが講師を務め、「上伊那では南箕輪村を除いて人口が減少している」「駒ヶ根市では出生数が40年前と比べ半数以下になった」など、人口減少による労働力不足や地域活力の低下など地域社会に与える影響について説明。SDGsの講義ではカードゲームを取り入れて地域づくりのキーワードである「多様性」や「DX・ICT（デジタル化の推進）」などを学んだ。

河合瑠菜さん（16）は「山や自然が多いふるさとに愛着があるので、地元が抱える課題についてこれからも関心をもっていきたい」と話していた。赤穂高でも7月中旬ごろに実施する予定。（梅森裕介）



Nagano Nippo

ご購入ありがとうございます

6月17日（木）

発行所 長野日報社

〒392-8611 諏訪市高島3 0266-52-2000(代)

©長野日報社2021